

# 2022年度 トピックス 1

## 「環境ESD演習I」 フィールドスタディ (滋賀県びわ湖・京都市岩倉・総合地球環境学研究所) 地域環境課題を学ぶスタディツアー —課題解決型と他者理解型の学び—

### 現地での活動内容 2022年7月1日(金)～5日(火)

- 7月1日(金) 新門司港⇒(フェリー船中泊)
- 7月2日(土) 滋賀県びわ湖フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換)  
⇒大阪港(泉大津)朝到着
  - ・湖族の里資料館にて堅田観光協会会長の講義
  - ・真野浜遊泳場にて、湖水浴体験&水草繁茂状況観察
  - ・貸農園見学
  - ・宿屋きよみ荘のご主人の水草繁茂に対する取り組みについてのお話
- 7月3日(日) 京都市岩倉フィールドワーク(インタビュー調査・意見交換)
  - ・岩倉川川掃除グループ活動への参加とグループ代表の講義
  - ・市内観光地のゴミ視察(八坂神社・丸山公園)
- 7月4日(月) 京都市岩倉フィールドワーク・総合地球環境学研究所にて講義
  - ・岩倉川散策(自転車)中村治氏の案内
  - ・総合地球環境学研究所 同位体測定に関する講義
 神戸港⇒(フェリー船中泊)
- 7月5日(火) ⇒新門司港 朝帰着



### スケジュール

本プログラムは事前学習・現地実習・事後学習の3段階で実施しました。

1. 事前学習 (2022年4月～2022年6月、計6回)
  - 滋賀県びわ湖や京都市岩倉の環境課題、現地の課題解決の取り組みについての学習、学生の興味関心や課題意識の意見交換等
2. 現地実習 (2022年7月1日(金)～5日(火) 4泊5日 [船中2泊含む])
3. 事後学習 (2022年7月、計3回)
  - お礼状を兼ねた課題レポート作成
  - 今回のフィールドスタディにおける各受入れ先へのフィードバック (感想・企画提案)

### 地域環境課題を学ぶスタディツアー

今年度のフィールドスタディは、滋賀県びわ湖と京都市岩倉を対象としました。びわ湖では、湖における水草の大量繁茂に取り組んできたグループに、岩倉では地元の岩倉川の清掃活動に従事するグループの活動を視察しました。水草大量繁茂と河川清掃という相反する取り組みを「不要物＝ゴミ問題」という大きなテーマで包括しました。ごみは、近代化の過程で量と質が変化してきたことや、昔のように循環すればよいという単純な話でもないことに気づいてもらうことも、このフィールドスタディの狙いでした。

さらに、他者理解型課題と課題解決型課題(PBL)の2つの異なるタイプの課題を出しました。1つは、水草大量繁茂問題を解決してきた人々の活動に密着し、ボランティアに地域課題に向き合うマインドに触れ、理解することを目的としました。水草繁茂問題にかかわってきた宿泊先のご主人に協力を仰ぎ、「宿の料金の秘密を読み解く」という課題を出しました。参加学生は、自分たちで宿泊先の食事やアメニティ、貼り紙に隠された環境に関する宿のメッセージを読み取ることで学びを深



めることができました。2点目は、岩倉の川掃除に取り組むグループの悩みを聞き、その課題を解決することを目的としました。課題解決の足がかりとして、地域の歴史や文化についても学びました。これらの成果については後日、現地でお世話になった方々にフィードバックしました。

また、フィールドスタディ全体を通してインタビューや参与観察という文系的な調査だけでなく、環境状況を知る方法として、生き物や水・大気・岩石等の繋がりを理解することができる「同位体分析方法」という理系的な手法についても学びました。



### 参加学生のコメント

#### 法学部 政策科学科 2年 宇都宮 一花

滋賀ではびわ湖の水草繁茂問題、京都では地域コミュニティと精神医療史について学びました。環境ESDプログラムだからこそ普段訪れない場所に行き、その土地らしさを五感で感じ、様々な人と交流をするという貴重な機会だったと思います。山や川といった自然環境や社会的背景、思想など様々な要因が絡み合っただけでなく、コミュニティができていてそれを改めて認識しました。さらに、共にフィールドスタディに行った仲間と感想を共有したり、語り合ったりすることができ、学びを深めながらも楽しい時間を過ごすことができました。今回のプログラムを通して、地域に愛着を持ち、自発的に市民が活躍するコミュニティの形をどのように築いていくかに最も関心を抱いたので、今後は文献や授業などを通して知見をより深めていきたいと思いました。

#### 地域創生学群 地域創生学類 2年 戸波 空土

今回のフィールドスタディに参加し、たくさんの良い経験ができました。びわ湖では、水草繁茂問題に対し地域の人々がどのように対応してきたのかを学び、また、びわ湖湖畔に位置する津市堅田の町の歴史についても併せて学びました。京都では、生活の場としての岩倉川と、観光地としての寺院や公園などのごみの現状について学びました。今回私が一番興味を抱いていたのは、観光地のごみ問題でした。京都は観光客をはじめ多くの人が集まる場所にもかかわらず、捨てられているごみがとても少ないということに気づきました。京都にごみが少ない理由は、地元の人による清掃活動だけではないと思いました。フィールドスタディ終了後に思ったことは、「整然とした場所ではごみを放置してはいけない心理が働く」ことです。これから様々なごみ問題を調べていきたいと思うきっかけとなりました。

#### 地域創生学群 地域創生学類 2年 長田 鼓美

今回の環境ESD演習を通しての一番の成果は、自分の知らなかった知識を得られたことだと思います。私に関心を持っていたのは、プラスチックゴミの削減といった日常生活のゴミ問題だったため、今回の演習のテーマであった水環境や河川のごみといった公共空間のごみについてはあまり関心を持っていませんでした。しかし演習に参加して新たな知識を得たことで、水環境や河川のごみについても興味をもつようになりました。現地では、びわ湖で実際に泳いで水草の現状を把握したり、湖岸で宿を経営する方のお話を聞いたりしました。その経営者からは、「環境保護活動に対して、直接または間接的にお金を支払う」という考えを伺いました。びわ湖の水草の問題については知れば知るほど奥深く、日本の湖や川の環境について、興味を持つきっかけになりました。これから、フィールドスタディで得た学びを日常生活のごみという分野にも応用して、これまで以上に深く考え、行動していきたいです。

#### 地域創生学群 地域創生学類 4年 片山 桃子

湖岸の清掃に取り組む宿のお話や、河川清掃を実際に体験することで、水辺のごみ問題に関して深い学びを得ることができました。1日目に、びわ湖を視察した際には、昔は水草を畑のたい肥として使っていたが、今は水草にプラスチックなどのごみが絡んでいるため、肥料として使うことが困難になっていることを知りました。2日目の岩倉では、本来川は様々なごみが当たり前のように捨てられる場所で、そのごみをコイ等の川に住む生き物が食べ、必要な栄養を摂取していたことを知りました。ところが近代化が進み、従来の自然由来のものに加えて、化学物質を含むごみが増えてしまったことで、ごみが自然に帰らなくなり、川にごみを捨てる行為が問題となってきたことを学びました。これらのごみが生態系の破壊やマイクロプラスチック問題を引き起こしています。私は、「川はごみを捨てる場所」という認識が残っているとすれば、それを変化させていく必要性を感じました。京都と滋賀は私にとってなじみの薄い地域でしたが、現地の活動に参加し、お話を伺うことを通して、リアルにそして身近に感じるすることができました。